明治三十七年十一月 第三種郵便物認可

朝鮮日報

紀元二千五百六十五年
韓曆光武九年
陰曆甲辰十二月二日

定價 壹ヶ月 金參拾錢（前金ナラサレハ郵送セス）
廣告 五號活字十九字詰 壹行壹日 金拾三錢 三日以上 金七錢 五日以上 金五錢 特別同 金貳拾錢
發行兼編輯人　印刷人
發行所 韓國釜山港大廳町二十七番地 朝鮮日報社

日報論壇

韓國に於ける我警察權（一）　黒潮生

既に有り矣、而も益々其必要を感ずるは我警察權を韓の内地に普及せしむるに在り。中央に最高顧問在り、十三道に亦警察顧問あらむ、而も韓山の内地に其權力を及ぼさんは甚だ難し。政府は無能にして官吏は姦濫と撲ぶ處なき状態に於て、警察權の普ねからんを望まんは是木に據て魚を求むるが如けん、而も其必要は是れ切なり、我邦人の韓國經營を叫ぶの聲に伴ふて此實行に着手せるの今日に於て。

既往に於ける韓國の所謂る我經營の着手は中央の一小區域と韓半島の南端及稍々北に遍れる沿岸に於てのみなりき、而して日清日露の兩戰役に於て我大軍團の鐵路に其道を借りしは頗に中央より以北にして三南の地今や京釜鐵道の開通を見るも土民は多く我國の威力に就て知る處あらず、我軍隊輸送の大觀を睹るなく且其戰鬪の猛勇を解せざる也。

此比較的邦人の移住繁き港灣を有する三南の地は、其交通益も便に所謂經營上の着手口に近からんとして、邦人の内地を旅行するもの益々加らんとするに當り、土民の我邦人に對する感情は甚だ穏かならず聞く處に由れば昨年の頃大邱に行く途中八助洞に於て匪賊の爲に殺害せられたる紳士あり、而して今年に至りても亦慶山に於て我同胞三人狩獵の途を要撃せらる、其一名は死し他は重傷を負へり、近くは馬山浦に於ける我警官某の如き又匪徒の襲撃に遭ふて重傷を負へり而して其孰れの場合を見るも邦人が已に宿舍に就ける後にして匪徒は常に一團体を組み邦人の後に尾して好機を覗ふもの、其害心は一時途上の盗心より出てたるものに非るが如し。

更に聞く處に由れば彦陽に於ても一月中我邦人行旅の途此等の盗群に追はれ靈出郡の釜實に於ても三十余人の一團が今より一週日前に出沒せるの報あり此賊群は一見良民と擇ぶ處なく、其出沒頗る便利にして三百戸の村に乱入の一團わりて來り掠るゝも官は之を捕ふる能はず民は之を官に告ぐる者無し、若し之を官に訴へんとすれば官吏は盗群の求むる處より更に多きを貪らんとし賊徒只之に報ゆるに「火」を以てす、嗚呼官は虎よりも猛く賊は火を弄ぶに慣る、然らば村民等は只盗難を避けて流離の行動を便にするより外亦他に自衛の策無き也。

此賊徒出沒横行の下に於て新事業を開始せんとする邦人は何に由て其身体と財産の安全を保たんや、韓國經營の事議せば止まむ、其内地に於ける産業の必要なければ則ち已む、既に是有れば我警察權の及ぶ所も亦然らざる可らず若し果して我警官其人にして先づ賊を誅せざるが如きものあらば何を以て我商工の徒を内地に放つを得むや。（つゞく）

雜録

今昔の感

對馬嶋露艦暴狀事件（七）

大東彈吾氏談、社員筆記

其翌々日である更に一ツの珍事が出來た、芋崎浦より大船越を經ゆれば宗家の御下邸の原にか僅に五里余には大鵬にも端艇にて一人密行を企てれ此事漁民の知る處となつた漁民は騒ぎ騒くなつた[illegible]は言語の通せぬを奇貨として平然として漁民は各自鳶や石を取り彼を目懸けて投附けた[illegible]めやうとしたけれど漁民は止まぬ故最後に彼は腰よりピストルを出して發け様に砲三發迄發した漁民も[illegible]〳〵彼が進行を遮り實彈を込めて放射し指揮し居たる百姓[illegible]れて無慘にも即死して憤り怒り砂石を[illegible]は遂に屈して這々の態で[illegible]藩主に報じた藩主は[illegible]し分を下して一藩の士を集めた其時藩主のお振れに曰く

衆中討死の決心の覺悟すべしさりながら予一人の心を以て此上の迷惑を醸すべからず一應幕府に急報すべし無念ながら予が胸中を察して輕擧する勿れ

と斯いふ意味であつた此御振れを見て激昂の情禁ずる能はず[illegible]も語る能はざる者もあつた實に此時は宗家六百年來の大騒擾と大難儀を發揮したのである而して沸騰の最高點と渦熱の最高潮とを呈したれである斯くて藩主は川元[illegible]を使として江戸に走らしめた

其後の事は多く言ふ迄もなからふ幕府より勘定奉行立田六助が出張して對露艦問題は全然宗家の手を放れたのさある猶一事乃記すべき事がある藩主は一藩の敵愾心を鎮撫する能はざるが故袖六百年來の舊地たる墳墓を捨て、國替を願ふたのである其文の悲壯の辭職は當時は實に涙の種であつた更に告ぐべき事がある彼れ露艦が万金を積で當時船渠建築案内を懇望するのに對して我對馬島民は最後まで老幼男女の別なく一人の願ふる者なき如き事實は後代迄も沒すべからざる光榮ある美談である

嗚呼物移り星換り星霜茲に四十年島の慈を擅にして横暴極る露國は今や果して何ぞ內には騒亂相次ぎ迷狂例外は精殺の師後影なく旭旗獨り悠々として南風に翻り海波漫々たるを見ては今昔の感慨極りなかるべし。

自分は茲に筆を收めんとして改めて我大日本帝國陸海軍人に無限の敬意を表し並に万歳の祝杯を擧ぐるを禁じ得ない（了）

慶尚道事情に關する釜山領事館の調査（續）

第六　鑛業

由來韓國は鑛山に富むと聞く本道に於て韓人等が産物と稱する者を揚ぐれば鑛（固城梁山）磁石鑛（金海丹城泗川）雲母、玉石、水晶水銀（蔚山）鑛（彦陽清山）金鉛鑛銅（熊昌原咸安）鑛（三嘉）雲母、砒霜、水晶瑪瑙石硫黄砂、白礬、鋼、鉛、銀（寧海、慶州）鑛（陜川）鐵（永川）金（星州善山）鑛（醴安慶鑛泉）鐵玉石水晶（尚州）銀鑛（龍宮）瑪瑙、水晶、玉石、雲母（豊基）なれども鑛山業の發達せざる當國の事なれば採掘するとも云ふも其產出額に至つては詳密ならず又内は今日にては其名のみ存して其實なきものもあるべし去れども晋州、義城、星州、若木、慶州、漆原、晉州、蔚山、安東等にて採取する金及砂金の如きは當釜山港輸出高のみにても一ヶ年十余万圓に上り其他各道の產出を合すると容易に數百萬圓に達し得べし而して本品は多く本邦人の手に於て買收輸出せらるゝものにて世人も知る如く砂金の如きは韓國農民が業務の余暇を以て採取するに過ぎざれども尚ほ前記の如く多額なるを以て韓國輸出品中主要なる位置を占め居れる位なれば韓國政府が鑛山業に注目し其採掘を開始するか或は斯業の奨勵保護政策を建て、其方法を善良に施設經營せば一層の増額を見て國家に大なる富を増加するは多言を俟たずして明白なるも未だ其準なく僅に一二を外國人の掌裡に放任せしめあるが故に利益の韓國を資するもの甚だ少なるは實に惜むべき事なりとす、左に釜山港に於ける去る明治參拾參年以降の輸出比較表を掲ぐれば、

年	輸出額
明治三十三年	十二萬一千八九百四圓
明治三十四年	十二萬二千九百六十八圓
明治三十五年	十万四千九百十五圓
明治三十六年	十一万七千六百八十六圓

第七　林業

慶尚道には森林の稱すべきもの更になく山岳丘陵は概ね連亘すと雖も概ね兀山禿陵のみにして僅に矮樹雜草の發生するの外只だ巍々たる山骨の露出するのみ林政の頽廢其極に達し實に造林の起らざるは實に痛はしき次第なり燃料として冬期は温突を用ゆる風習として稚木雜草の別なく之れを刈取して以ては移根迄も掘出して遣す所なし故を以て燃料の原料は年々缺乏を來し韓國に於ける殆んど其踏襲に應ずる事能はざるに至れるもの如し

國土保全上至大至重の關係を有する森林にして斯の如き有樣なれば若し霖雨連日に亘れば直に土砂を流出し河水の汎濫劇甚を極め田畑の被害甚しく慶尚道の如き洛東江岸には砂礫堆積の平野渺りなきを見る左れば一度森林の施設其宜しきを得は現在の禿山は變じて鬱々たる森林となす事敢へて難事にあらざるなり然るに未だ森林の水源涵養に至重の關係あるを知らず任意濫伐を事として顧みざるが爲め韓國の主腦たる慶尚道上最も關係深き氣候の調和を缺き片降り片照り洪澇の患苦を受くる等實に痛歎すべき事なり

第八　牧畜

韓國は各種の牧畜に適し牛馬の如きは到る處飼養せられ殊に濟州島の如きは古來有名なる牛馬の牧場なりと聞く又慶尚道内にありては釜山前面なる絶影島の如きも其以前は牧場たりしを以て今日尚ほ牧の島と俗稱す

牛は全國飼養せられ其種類は韓國固有のものにして其他往々蒙古満州種等ありて體驅良く發育し性温良最も力役に適す飼養は概ね暖季に際して原野に放牧し夜間は牛舍に入れて冬季は舍飼となし大豆大豆葉稗稈粟稈等を煮て與ふる者とす而して牧場と稱する者なく只便宜に從ひて河邊山麓沼澤附近の草生地を用ゆるのみ飼養法は斯くの如く疎なりと雖も其繁殖法に付きては地主の小作者に於けるが如く特種なる方法の古來より行はれ即ち其方法たるや價額十三四貫文若くは十五六貫文の牛なれば年に一貫文乃至一貫二三百文の賃料にて農夫に貸渡し其牛が犢牛を分娩したる時は其犢牛は母牛の飼主に分るゝも牛主は回收せらるゝを規とし回收せられたる後犢牛は更に之れを他に貸與して牛主は年々收入を得るものとす而して其賃料に度したる犢牛に對しては最初牛主は其賃料を徴收せざる代に飼養の義務す尤も近來牛主は益々繁殖を圖りて犢牛一頭の時價相當の金錢を貸與する風行はれ來れり其金額は時によりて差異あれども一頭に付き概ね三四貫文位のものなりと云ふ牛の用途は主として力役及び食用の二つにして其皮、骨、排泄物等又た用ひらる而して力役用としては犂、荷車及び負荷に用ひ七八才に至りては食用として屠殺す牛肉は部分の別なく貴賤男女共に嗜み食ず皮は屠殺したるものと斃死したる者とを問はず凡へて是れを剝き取り成るべく通行人の頻繁なる街路に觸て人畜の蹂躙に委せて乾燥せしむ

生牛及牛皮、牛骨等は韓國重要貿易品にて就中元山及城津より輸出せらるゝ生牛は專ら露領浦鹽港に向ひ釜山よりするものは全く本邦に入るも牛皮は各貿易港の何れなりとも主として本邦向きにして其の中少許は支那に向ふ牛骨は專ら本邦に輸入せられ其好良なるものは各種の骨細工に用ひ其他は肥料に供せらるゝなり

馬は體軀甚だ矮小にして其丈け通常三尺六寸なり色は鹿毛、粟毛、芦毛を主として青色あり蹄質堅硬にして其性柔順能く十數貫の重荷を負ひ七八里乃至十餘里の嶮坂險路を連日續行するに堪ゆ

驢は體軀矮少にして其大三尺二三寸を出でず性質強健にして主として乘用に供せらる

豚の飼養は各地方も可なり盛なりと雖も其種類劣等にして體軀矮少なり飼料は人家の廢物草等にして人畜も又飼料の一部を占む其多くは家屋の附近に放養し夜に入れば石垣若くは粗木にて造りたる柵中に飼ふに過ぎず

山羊は各地共僅に飼養するのみ其色概ね黒色にして丈け一尺四五寸なり單に人家の附近に放飼し專ら食用に供す鶏は各地方到る所に飼養せられざるはなし

一、牛疫

韓國の牧畜上最も注意を要するは牛疫なり牛疫の恐るべきは韓人と雖も之れを知れども其取締等に就ては更に意に介する者なし假へば牛疫に斃れたる牛の肉を食用として販賣し其皮は道路に掛けて乾燥せしむるの類なり然るに生牛を輸入するは頗ぶる多き數にて慶原、下關、長崎、神戸、横濱港にて檢疫を行ふ制ありと雖も間々漁船により他所に密輸入をなす者あるにより韓國の牛疫にして杜絶せられざらんか其毒害は延て我邦の牛に及ぶも到底免れざる所なり

新體和歌

●穗燈獨吟　東京 小田野麗泉

銀の玉と疑りたる朝の露地の子が罪の犧牲とくだけぬ。

堂の森の楓に彫りし戀の歌、戀二千年我が世ふりたり。

新春や京紫の舞ひすがたかざり扇に初日かがやく。

み手活の花のおごり香室にみちて世にほこらむの幸おほき春。

新室や灯かげゆら〳〵の亂れ髮、夜半の吹雪に心をつゝる。

眉細う遠山のぞむみ姿や思ひ出れはきぬのれはしま。

み姿を畫ませまほしの新春や梅が香若くひろにみちたり。

すゑ世を秘たしのばせるき夜砧月をかつぎて泣く孤り散。

燐燦の月滲すてきの森の歴史をさゝやく木枯の風。

何ごならうら悲しさにみ手活の水仙の花手亦むり〳〵しかな。

俳句

◎黒潮子に送る　金澤 紫影

染初めや江を渡りて梅の村

編積みし七尾の町や春の宵

君を訪ふ千代の古道春の雪

東風吹くや五番下酒井の旗

旗見ゆる松の木間や春の山

◎紫影兄に答ふ　日報社 黒潮

髭そつて浮世の春を迎へ鳧

我逢に木乃伊となりて夢の春

十年の旅を語らむ春の宵

雨多し春雨傘を土產にて

からくにや鶯啼かず花咲かず

小説

佛蘭西騎兵の花（十三）

英國 コーナンドイル作　日本 梅村隠士譯

幽靜城の探險（つゞき）

世良田は一生の内に幾十度と云ぶ大激戰に出會つたので其名を忘れてゐる方が多い位であるが其記憶に殘る一番恐ろしい有樣であつたのは橙子色の緞の眞中に眞紅の血の溜りがある其中から自分の劍の切先を引拔いだ時である。

其當時はそれも世良田の眼には能く入らなかつたので大男の身体が床の上に倒れたと思ふと後の隅に居た美人が双手を揚げて打叩きつ躍る樣に嬉しがつたのが見へた。

世良田は女として血を見て斯う喜ぶのを見るのはあまり心持よくは感じなかつた、而しながら其時の世良田は此の美人が女としての優しさをも打忘れて斯樣に喜ぶ迄も彼の殘酷の男爵が非道い事をしたのであつたと云ふ事を忘れてゐたのである。

世良田は女を制して靜かにせよと叫んだ、丁度其時である、世良田の鼻を衝く臭氣が何處のらかして來ると同時に不意に黄色い餤が室の内に這入つて來たと思ふ世良田と美人の二人の影が朗らかに壁に映し出された。

『龍野君、龍野君』

世良田は倒れたる龍野の肩を撼りつゝ呼だ

『火事だよ、城が火事だよ』

龍野は今迄の疲れと負傷の爲めに早や氣絶して了つて居るのであつた。

世良田は一度廊下に驅け出して何處から烟が來るのであるかを見に行つた處が此火事を起したのは先に自分達が居た室の爆烈させたのがなので扉の板は燃え移つてそれから其室の内にある物に燃え移つてゐるのであつた、見れば糧食庫の中からなんかが猛盛んに燃え上つてゐる、いた世良田の胸は水の如く冷くなつた直ぐ隣の室には彈藥の箱が何個も藏せる其内には口の開いたまゝにして少しも立たぬのである、それがあの黒い火餤が彈藥庫の力に移るのは、もう一分時れてゐるものもあつたから。塊に付かうものなら此城中に居る人間は皆助からない。

それから後はどうしたのか世良田は少しも覺へないのである、兎に角龍野の倒れてゐる處に驅け戻つて其片腕を引摑んで廊下に引ずり出したのと美人が龍野のもう一つの腕を抱へて蹤て來たのであつた事丈けは覺へてゐる。

斯くて門の外に世良田は飛出してから、雪の積んでゐる道を驅けて森の入口まで來てから後を見返るトタンに大きな火の柱が冬の空に立ち登るのを見た。

續いて亦二度目の爆發が初めのより猛烈しく響き渡つた、世良田は此時槍の木や空の星が渦き廻る樣に思はれて龍野の身体と折り重りて倒れて了つた。

○○○○○○○

それから幾週間か經つてから世良田は始めて我に歸つたが其時はアレンスドルフの郵便局の一室に寢てゐた、

龍野は最早勤務に服してゐるのであつて世良田の寢臺の側に來て其當時の有樣を話して聞せた、

其話によると彼の城の爆發の時に材木の片が飛んで來て頭に當つたので世良田は氣絶して倒れたとの事、それと彼の美人は此時龍野の部下を起して此始末を知らせた爲ま、彼の黒い服の門番がコサック兵を呼びに行つたのが幽靜城に到着する前に二人の身体はアレンスドルフの村まで運ばれたのであつた此勇敢なる美人は二度程二人の生命を助けて呉れたのであつたが龍野は一向此美人の事は世良田に話さなかつた、

其後ワグラムの戰爭がすんでから二年目に世良田は巴里で龍野に會つたが其細君に紹介された時には別ゝ驚く事もなかつたのださても不思議の縁で以て龍野は外部男爵と云ふ名を自分に呼ばれる樣になつて彼の黒な幽靜城の壞れたのを自分の物として所有する樣になつてゐた、

（此項了り、次は別の冒險談に移る）

朝鮮日報

通信

●門司特報（二月二日發）

特派員 玄洋生

●中央軍前面の敵情

二十七日戦線を發し本日歸來せる某將校の談に目下野津軍左翼前面の敵は二十河子、猴子街の前方約二千米突の地點に對陣せるが敵は二十一日以來毎日砲銃小銃射撃を爲すも絶へて砲彈を發射せず加之を近來投降するもの續々絶へず彼等は重に猶太人波蘭人にして相提携して斥候兵を志願し或は高梁殼を馬糧と爲すべく採集に來り此機會を利用し武器を棄てゝ投降するを常とす去る廿五日五人の猶太人投降せるが彼等の言によれば自分等は本國の友人より來りし書翰中に露都の大騒擾は全都市に彌蔓し皇帝は何れにか蒙塵せられたれば日露の戦局は勝敗の數既に然たる今日に當り無益の戦争を爲さんよりは速かに日本軍に投降するに如かずとの文意に依り吾人相謀りて投降せるなりと又彼等の言によりて推測すれば敵軍の大主力は我左翼前面に在りて中央軍方面は比較的敵勢の薄弱なるが如く撫順方面には尚ほ四個師團の敵あるが如し而して我右翼の前哨より撫順迄は約三里餘なれば廿八珊の砲彈は既に彈着距離を有するか如しと

●渾河の戦報（最新飛報）

●左翼軍觀戦談

渾河戦線我左翼軍の觀戦を爲し本日歸來せし某將校の談によれば對陣久しく百日肉飛り腕鳴りて轉々脾肉の嘆に堪へざりし我將士は前日來敵の動搖と投降者の自白とに依りて近く數日間に於て活劇の起る可きを豫期せし我左翼縦隊の最左翼部隊は腕を扼して之を待つもの實に一刻千秋 廿三日よりして寒氣俄かに加はり西比利亞原頭より吹き荒る朔風は白雪を縦横に飛ばして殆んど面を向くべくもあらざる廿四日の薄暮、敵が以前よりして據守せる渾河の北岸北長灘なる陣地に備へ着ける二門の重砲は先づ砲口を開いて恰も開戦を宣告せしが如く我に向つて砲撃を加へ漸々其度を增加し稍々激烈に至りしも夜十時前後に至り沈默せしが越へて廿五日朝敵は重砲の外野砲若干門を增加したるもの〻如く午前八時を期し盛に砲撃を開始せり、されど我はさらに之に應砲せず空しく之が昔日を經過せり我最左翼方面は縦横千里部落鶴林の外○は○其一○部○○之を○護○し得るの便あるを以て此不利不便の地によりて敵の行動を監視するは戦略上決して得策ならず故を以て我は僅かに秋山騎兵團と歩兵一部隊とのみを備ふるに過ぎざりき加之敵が行動開始の後に至りて我は之に應援するもまた遅きにあらざれば我は猶此の部隊の兵を留めて此一線を監視せしめたりき

廿五日の一日は既に没して、陰暦二十日の夜の宵闇なるに陰雲空を鎖さし面を打ち吹雪と咫尺を辨ず可らざるを利用せ 敵は實に一個師團半の優勢なる部隊を以て長灘より黒溝臺に及沈旦堡に向つて前進を開始せり此時豫備隊とも付かず戦闘部隊とも付かず空しく第二線に在りて而も開戦以來未だ嘗て一兵だも血塗らざる立見兵團は敵の逆襲開始の報一度總司令部に達するや忽ち救援の命は此の兵團に下されたり

元來防禦力の薄弱なる我最左翼の一線の前哨中隊は廿五日六百に餘る約我に三倍せる優勢なる敵を撃退せしも如何せん敵は益々增援を得て肉薄し來りたれば衆寡敵し難く中隊長には**行衛不明**となり小隊長一名は戦死し其他の死傷少からざれば遂に後方に退却するの止むを得ざるに到れり斯くと見たる敵は與し易しと思ひ侮りてか恰も一個師團半の增援隊を得たれば全軍此處に三個師團の大部を有して強行乗轡運動をなり緩かに本攻撃に轉ずべく長灘より一部は柳條口の方面より襲來せり是より先き救援の命に接し立見兵團は急遽武装を整へ直ちに發程廿五日の午前第二時沈旦堡の後方古城子に到着し此處に部署を定め兩側の敵に向つて迎撃せしも廿三日以來の積雪は此時已に地表を覆ふ所の約五寸人馬に依りて踏み固められたるは空に舞ふて西比利亞の朔風に翻弄せらるゝ塵芥を混せる吹雪の中に鴨緑九連以來の**敗戦の恥辱を**雪ぐべく企圖せる敵と、幾多友軍の戦捷に羨望措く能はざりし新來氣鋭の立見兵團は其雌雄を決すべく相衝突せしが元より優勢を見て變通自在なる立見將軍は早くも守勢より攻勢に轉じ秋山騎兵團と相聯携し雪を蹴つて敵軍に向つて格闘せり始めより我防禦力の薄きを侮りたる敵は天の時のみを恃みとして全軍殆んど露出の有様にて進來せるを以て假令幾千の砲門を行し後方約三千米突の地點より援護射撃を爲すも其功甚だ鮮きに反し我は已に地の利を占むるのみならず衆心一和此逆襲の敵を撃退するにあらざれば屍はよし雪に埋むとも留て一歩も退かずとの決心牢固抜く可らざるの概あるを以て我は砲の掩護なきも近づき來る敵に足溜を與へじと咄嗟敵陣に向つて攻撃し銃火相瞬く暇殆んど面を向く可くもあらず、我**猛烈なる一齊射撃**に流石頑強なる敵も遂に蹉跌して廿六日沈旦堡方面の敵は柳條口方面に地は黒溝臺附近に壓せられたり

廿七日我最左翼方面には我砲門の已に到着せしを以て朝來盛んに砲撃を開始し廿八日遂に柳條口を奪取し李家窩棚を陷れたるが同夜又もや敵は逆襲を企て激烈なる勢を以て柳條口に進撃し來りしも遂に其目的を達する能はず多大の損害を蒙りて潰走せり

東京電報

●撃退亦撃退（本日午後八時五十分發二時十四分着）

三日滿州軍報告に曰く昨夜敵の小部隊奉天街道蘇家烟子ヨリ來襲せしも撃退せり其際の投降者四名あり昨朝我左翼に襲來せし敵二個旅團は長灘方面に撃退せり敵の損害七百以上に達す

●露帝恐喝さる（午後二時五拾分發四時二拾分着）

倫敦電報に由れば社會黨は露帝を殺す可しと絶呼せり

●波艦隊引返さん（同上）

セートセイト發ルーター電報に由れば波艦隊の一部はスニスを通過して歸航す可し亦其一部は波斯灣に寄港す可しと信ぜらる

雜報

●波羅的艦隊の動靜

桑港クロクル紙部特派員は報じて曰くロゼストウエンスキー提督の率ゐる波羅的艦隊は今日に於て只マダカスカル島附近を彷徨しつゝあるのみにて何等航海の目的も決定し居らざる如く直に烏港に向ふ計畫にもあらざるべく又歸航と云ふ運にも至らざるべし想に目下日夜工事を急ぎつゝある第三艦隊竣工の暁は之と相合したる上ボリチンヤ附近の一無人島を占據して何事か爲す所あらんとするにはあらざるか予は本日パチ?ノフ總督と面會し日本が烏蘇攻略に着手せる報道を語りしに同將軍は若し烏港にして封鎖されんか艦隊は結局歸航するの外なかるべしと語り云々

●拿捕船と其貨物

昨年二月開戦以來今日に至るまでに我艦隊の拿捕したる敵の船舶數は昨年二十五隻本年九隻ありて合計三十四隻に及び塊炭及びカーヂフ炭の密輸船十隻の内已に載貨額の判明せしは六隻此炭量合計金二萬四千二十一噸にして之を時價に換算すれば其概金四十八萬四百二十圓となるを以て其他未定の四隻の載炭價額を合算すれば一百萬圓以上の巨額に達すべしと云ふ

●旅順陷落の紀念日

旅順陷落は我國民の永久に紀念すべき一大事件なるも其時日につき往々疑義を抱くものあり即ち開城を申込み來りたる一月一日なりや又た開城條約に調印したる二日なりや將た亦た開城を實行したる三日なりや何れを陷落の時日として今後之を紀念とすへきや明瞭ならずとその筋に問合せ來る向少からざるを以て此程大本營に於ては條約調印の日即ち一月二日（午後九時四十五分）を以て正當なる陷落日なりと斷定しその旨各府縣に通牒せりと

●副島伯爵逝去

樞密顧問官副島伯爵は去月三十日午前十一時腦充血症に罹られ種々療養に手を盡されしも同日午後十二時終に逝去せられたり伯は誠に國を憂ふる明治の功臣として又た一代の鴻儒として夙に一世の仰慕する所たりしに今復此凶報に接せしは眞に哀悼に堪へざるなり

韓國雜事

●借款問題と白銅貨の處分

清水京城第一銀行支店長談に由れば過般韓國政府と第一銀行京城支店長清水泰吉氏との間に締結せられたる借款契約の全文は韓國及東京にては發表せられざるべし又た報道せし借款金三百万圓に對して世間にては白銅貨の回收に使用するもの〻如く速了するもの多かるべきも道は實に貨幣制度改革に對する諸費用及新貨鑄造其他の設備に關するものにして從て其支出額も一時に百万圓を要せず又右借款金額の支拂は日本政府の兌換券及第一銀行一覽拂手形の内何れにても便宜に支出することゝし別は何れとも限定せし譯にあらず契約利息の外第一銀行手形は從來晴歡の間に流通を認められ居りしも往々流通の妨害を受けたりしが爾今韓國政府の公認を經て流通するところなれば故に銀行紙幣の形式にて別に差支なきも其形式に付韓國政府公認の紙幣として公認せしむるなどに改良しこれば早晩其外形を改むるやも知れず尚ほ第一銀行は韓國の中央銀行たるべき地位と國庫の取扱を始むる筈なるが從來日本政府の銀行取扱振は嚴密に失し爲めに冗費を支出したるの嫌あり故に韓國に於ては成るべく其取扱を簡單にし實用的に取扱ふ筈なり又た第一銀行にては諸般の設備を要す實務なれば來六月一日より之が準備に着手すべき筈なるが同行にては去月二十八日の總會にて愈々五百万圓の增資となり都合千萬圓の資本となれり又白銅貨の價格其他之が回收に關して杞憂を抱くもの多かるべきも是等は枝葉の問題にして先づ其契約其物の根幹を固め徐ろに研究に取係るべく未だ發表するの程度に至らず云々

●借款契約要領

度支大臣と第一銀行京城支配人との間に締結せられたる契約に就ては大体に於て之を報じ置きしも其内容の稍詳かなるものを聞くに今回契約の動機たる政治上並に經濟上の關係より韓國が甘んじて借入すへく自覺したるものにして彼の顧問なる立案により交渉を重ねたる上第一銀行に於てもその成案の十分なるを見て承諾すへく決定したるものなる由而してその契約は凡三十ヶ條より成り居るが要するにその骨子となりて注意を拂ふへきものは左の如し

一、韓國の貨幣整理を斷行するに就ては第一銀行を以てその機關たらしむる事

一、機關となすの形式は同銀行を以て韓國の金庫事務を取扱はしむる事

一、金庫事務を取扱ふにつきては同銀行は京城に中央金庫及地方の樞要なる土地に支金庫を開く事

一、中央金庫に於ける事務の取扱は公金の收支白銅貨交換の二項にあり

一、度支大臣は中央及地方に於ける第一銀行券の流通を公認し公金及商取引に要する事

一、韓國に於て必要あるときは双方協議の上借款を起すことあるへし此場合に於ては担保はおほむね海關税を以て成立せしむへし

一、今回財政整理上白銅貨交換に對する諸般の費用として金三百万圓を銀行より度支部に貸付たること（是を以て猶お白銅貨回收資金と見るは誤り）なりと知るへし

●馬山浦の現狀（釜儈生寄）

去る三十一日馬山浦に出張本月二日歸來せる石崎商船會社支居長の馬山浦觀察談は面白き節多し

▲馬山浦の設備は大計畫にして發展の地は充分なり舊馬山浦は燒失後大概新築し終りたり同地は日韓人混交して商業は活潑日增盛大に趣くならん新馬山浦は重に行政官衙にて占有され居れり

▲市街地たるべき要地は概ね木地主に於て占有され居るは遺憾となすべし何んとなれば今後の發展上に障碍を來すべければ也斯の如くなれば或は商業上の中心地は他に移動するやも計り難し

▲港灣の深くして入江の立派なる事多く見ざる所也夫れに山水の明媚にして風色の佳絶なるには一驚を喫せり日覆かに波穏かなるは理想境の如く我日本の松島杯に比にあらざるべしと思はる

▲同所は故近衛公が深く縁故あるを以て實に内外觀光の地として邦人に好奇心を興へてある春夏秋冬眺め佳ならざるは無るべきも別て夏秋の遊覧に最も適すべしと思ふ

▲良港とまて風光の地として稱つながら比類なき此地に着目し鋭意經營を盡せる露國の炯眼も嘆くへし今や此地は我日本の手により專ら經營せらるゝと思へばソゾロ愉快の念に堪へず

▲夫に驚くの經營せる道路の如きは實に立派なる者夫れを踏襲して經營せる擧なれば輻員とし平坦と言へ將來如何に發展するも不足をいふ患なかるへきし

▲鐵道の落成は旬日の間にありと聞く停車場は新馬山浦と舊馬山浦の中間位にあり殆んど一万圓を要せりとの事可なり見るべき建築なりき

▲予は當地の人々に勸告す馬山浦と當地とは密接の關係あり海路は僅かに三十九海里四時間餘の行程に過ぎざれば諸士が日夜の劇務に疲勞せる腦を休めんが爲め二日の旅行を思い立たば發展地の狀況の知るの利と山紫水明の佳景に接するの趣味と實益と並び享るを得へし

釜山雜事

●四十餘名の屠牛者

本邦に於ける畜牛昨今に至り非常に不足し精肉、鑵詰用共に之れが影響を受け何業者の注意と注目は盡く韓國に注がれ昨今に至り四十餘名の屠牛者入韓當地附近は勿論遠く大邱附近に至りて買牛に着手し居れる爲め當港に於ける全品關係は非常の影響を蒙り居るもの、如く昨今小賣相場百目に對し精肉に於て十錢骨附にて七錢の騰貴を爲し今後骨附にて精肉の現在價格ゑ摘ぎつくる模様も見へ居ると云ふ

●罐詰組合と佐藤獸醫

近來各地に於て牛肉用の需用多く隨つて之れが撰肉に關する研究等も世間に喧傳せられ牛乳の滋養可否問題の如きさへ論爭せられ居る今日罐詰用牛肉の如きは最も精密なる檢査と注意を拂はざるべからざるに依り當地罐詰組合に於ては警視廳獸醫佐藤浩雄氏を招聘し罐詰となす可き牛肉一切全氏の鑑定に委せたる上完全なる牛肉を以て製造すへしといふ

●釜山罐詰所雜事

一昨日小川主任京城より歸釜種株補給の交渉は成功すへしといふ△農商務技師下啓助氏は本日鎮南山より齊多同所を視察縦覧する由△有吉領事昨日屬官を隨へ同所を視察縦覧せられたり

●[illegible]買入募集委員

[illegible]協議會の結果左の人々を募集委員に選定し民長より夫々依頼書を發送したり

本町 小方駒藏 藤田辰三郎 迫間房太郎 豐田福太郎 村上元次郎 齋藤藤藏 坂田與市 松前才助

入江町南濱町 岩崎新平 鳴戸鍋松 西村幸治郎 木村富藏 豐田朝吉 大池忠助 森岡佐太郎 桐岡金藏 中村俊松

辨天町幸町 長谷川龜太郎 中川重太郎 柴山德藏 林虎之助 山本庄三郎 大倉粂太郎

西町大廳町 伊東其三郎 梅崎梅吉 神嶋德郎次 五島甚吉 石川與平 花岡幾藏 今西峯三郎 下條忠三郎 山本粗一 木本音治 桐嶋復吉 福田增兵衛 松崎半次 黑岩國太郎

富平町 上野忠太郎 江澤平藏

●民役所庶務規定改正（つゞき）

第九條 各課長は前條の文書を接受し又は發議を要する時は其方按を定め主任をして速に之を處理せしむべし

第十條 各主任前條の文書を接受し又は發議を要する時は直ちに起按又は供覽の手續をなすべし

第十一條 各課提出の文書は關係各課の回議閲覧を了したる後助役を經て民長の檢閲を受け處理すべし

第十二條 文書整理に關する諸般準據式並に發行文書文例は各課に於て式例を作り豫め助役を經て民長の議決を受け執行すべし

第十三條 完結文書は類例に從ひ之を編綴し重要の文書は冊首に目錄を付し索引の便を設くべし

第十四條 休暇日並に毎日廳務時間の終りより翌日廳務時間の始め迄書記一名宿直すべし

第十五條 前條の宿直者在直中文書物品を收受したる時は在宿收納簿に登錄し翌朝（休日に相當する時は順次翌朝とす）廳務主任者に引繼をなすべし 但急用の事件は直ちに之を主務課長又は當該に送付すべし

第十六條 吏員の服務心得を定むる事左の如し（左記略す）

●稅關其他休業

昨日は舊正月一日にて韓人一班業務を休みしに依り稅關を初め三浪行及び日韓精米所その他韓人と關係せる商店會社は何れも休業せり

●婦人新年宴會

昨日は舊の正月元旦なるを以て例年の如く草梁監理署ゑ韓人新年宴會を開きたるが來會者頗る多く盛會を極めたりと

船舶出入

●水雷艇の入港 我が水雷艇一艘は一昨日入港碇泊中なり

●木浦丸 昨日午後三時當港出帆仁川に向け回航せり

●漢城丸 は昨日午前八時當港出發馬山浦群山木浦を回航落からよりは三十餘名の乘客あり

往來一束

●足立太郎氏（京釜鐵道營業部長） 來る廿六日神戸發安東丸にて歸釜の筈なり

●井上雅二氏（朝鮮日々新聞社長） 一昨日來釜大池旅館滯在中の同氏は昨日の木浦丸にて上京の途に就けり

●和田京城病院長 京城病院長和田八千穗氏は一昨日來港大池旅館に投宿

●朝倉幾太郎氏（山陽新聞社員） 韓國視察の途上にて日本社を訪はる

●韓錢相場（二月三日） 現價 十七割五分

明治卅八年一月十四日 第三種郵便物認可

廣告

●大邱の新聞取次

御好評の朝鮮日報を首め大坂の三大新聞並に京日日、報知、萬朝此七大新聞の一手取次を致します
中にも朝鮮日報は如何なる御商賣柄でも最も必要の新聞で紙面といひ記事と云ひ代價と云ひ他の朝鮮新聞に比し甚だ徳用だとの御評判ケ讃て居ます
皆さん何なりとお好みの方をお召し下さい配達は如何なる雨天にても又た夜間にても精々迅速に致して御覧に供します
又た雜誌は目下の處朝鮮評論と日露合戰記とが參て居ります他にも追々と京坂地方の分を取り寄せますから澤山御注文下さい
韓語本、日韓本色々と取り揃へてあります御用次第何時でも御届け致します

大邱府西門内
朝日商會新聞部

今般當地ニ支店ヲ設ケ鐵道貨物運送營業開始仕候

京城、仁川、永登浦ヲ始メ京釜鐵道主要各驛ニ本支店及出張所アリ御都合ニ依リ運貨荷捌ニ付御取扱可致候京仁方面ニ於ル鮮魚野菜穀物海産物其他一切委託販賣ノ御相談ニ應シ可申候

草梁停車場前
京城稻田組運送部
釜山支店

釜山幸町南濱通一丁目拾五番地
共生齒科醫院

磨 擦米 廉價販賣
富平町
岡本商店
(電話三十一番)

西町三丁目
上西酒店

●乳牛健康無比
富平町廿四番地
純良牛乳 稻尾牛乳店
●配達迅速便利

開店廣告

弊店今回左記各種雜貨卸小賣商開業特別廉價販賣仕候間多少ニ不係御注文之程奉願上候

黄燐々寸 安全燐寸 洋鉄各種
白赤さらしあん 洋釘各種
硝子板各種 ショヘル カスガイ 其他各種

釜山港本町三丁目十九番地
石川勝治

大坂毎日新聞 一ヶ月代 四拾八錢
萬朝報 一ヶ月別 大割引 三拾錢
幸町一丁目長手通
山口新聞舗

時計各種
電氣鍍金 金、銀、赤、ニッケル
幸町一丁目
園田時計店

最新美術流行絹織物半襟京友染

第壹回臨時販賣廣告

弊店は時局及鑑み左の方法を以て來る二日より紀元節まで向十日間賣上金の内原價を控除し利益の全部を恤兵部ゑ献金の目的を以て花々敷販賣致候に付き右趣旨を以て陸續御買求被下度廣告候也

○貳拾錢以上の賣品に對し景品を呈す
○金五圓以上御買求の方は特に新聞紙を以て御姓名を廣告す
○景品は御來店の上御一覧被下度候

明治三拾八年貳月一日

萬打刃物類 諸大工道具
釜山北濱壹丁目百番地
大阪 下村釜山支店

呉服太物
御春着用嶄新柄 各種品揃
大丸 原口釜山支店
電話七十二番

營業科目

京釜鐵道各驛旅客需用品販賣部
京釜鐵道貨物運送部
釜山港内便利部
出入港滊船乘客手荷物運搬部
其他葬儀部等を設け凡て何用を問はず諸彦の需に應に

電話は不日架設仕候
幸町三丁目九番地
釜山赤組本部
草梁海岸通
赤組出張所

廣告

今般當所製出致候牛肉ソープ去廿六日ヨリ左ノ價格ヲ以テ發賣仕候ニ付テハ御試用ノ上陸續左記ノ處へ御申込被下度希上候

一合瓶一本金貳錢
ビール瓶一本金六錢

配達申込所 南濱町廿八番地
製造所 釜山鯛菓製造所
平田秀吉
(電話一四九番)

特約販賣廣告

呉服太物類

右は今般下店義製産地と特約を結び何品に依らず特別大勉強を以て顧客諸氏の御注文に應じ迅速御便宜を相計り可申候に付何卒多少に不拘御用仰付被下度偏に奉懇願候

呉服問屋
大日本吉崎本店
縮島合名
合資社團本店
一手販賣係

幸町長手通 吉崎支店
幸町南濱通 福嶋支店
富平町 森與三郎

清酒特約販賣廣告

藤正宗

大日本 吉崎善三郎 醸造場

特約販賣店
寺町 吉崎善造
富平町 森與三郎

大日本專賣局指定韓國官烟輸入元

釜山幸町一丁目

●文明 ●朝日 ●大和 ●きざみ 印刻煙草

齋藤支店

きりん印刻煙草 韓國一手販賣店

風邪良藥
●妙振出し
●安質比林丸
●醫科器械類
●和漢洋藥類

藥劑師 釜山本町
弓削靈藥館

丁寧親切
南濱町六番地
柳井旅館

株式會社第五十八銀行釜山支店
(電話五十八番)

(爲替取組先)
東京 大坂 京都 名古屋
伏木 敦賀 横濱 尾ノ道
兵庫 神戸 米子 宇和島
柳井 岩見 山路 下ノ關
廣嶋 倉敷 姫路 伊萬里
長崎 博多 藤津 阿知須
防府 仁川 小唐 京城
一般の銀行業務は總て御便利に取扱可申候

東京直輸入
嶄新にして大流行品
はきもの たび類
特別廉價を以て販賣します
内山商店
電話二五六番

寫眞撮影
釜山全景其他名勝景色寫眞韓人風俗數十種
長手通辨天町
平井寫眞館

勉強廣告

弊店開業以來日に増繁榮に赴き候段奉感謝候御愛顧に依り此上一層の大勉強を以て販賣仕候間多少に不拘御買求の程偏に奉希上候
此外石灰竹瓦販賣仕候

南濱海岸通り
嶋末材木商店

東京御料理
南濱海岸通り
とろ あそひ
(電話二四四)

純良 健康無比 牛乳 迅速配達
富平町
磯村牧場
(電話五壹)

會席御料理 仕出し
西町三丁目(電話一二三)
春日

●滋養スープ
●洋食
●會席
●御わし
●花むし
●茶碗むし
其他御好み應ず

幸町
養鶏舍

元祖 鯛でんぶ、つる、がんかも、鯛味付、鯛鹽から
鯛味噌、鮑、鰻蒲燒、鱧蒲燒、牛肉、さざえ

製造鑵詰小賣販賣之外御好に應し製造仕候

弊店儀拾有余年間罐詰業ニ從事シ實地ノ功驗ヲ積ミ今ヤ軍隊御用ノ榮命ヲ賜リ總テ器械ハ最新式ノ物ヲ使用シ確實勉強仕貴客ノ御便利ヲ計リ左ノ諸店ト特約販賣仕候間續々御購求ノ程願上候

入江町六番地

鯛でんぶ元祖
仁川 加納商店
仁川 春武商店
京城 井上商店
日本長崎築町 牧野商店
糧食問屋 隈田商店

屏風 フスマ 表具一切 調進所
西町三丁目三番地
岡田松月堂

血を増し肉を肥し胃を健にする強壯的飲料は本品に如くものなし

蜂印葡萄酒

韓國一手輸入元
釜山幸町一丁目
齊藤商店
電話番號一四四

齒科診察治療時間
自午前八時至午後五時
但齒痛患者は此限りに非ラズ
西町三丁目卅八番地
深江齒科醫院
(電話二百五十二番)

勉強廣告
國府洋服店
辨天町一丁目

唐津石炭
コークス 木炭
國安商店
電話一七一